科目名	医療安全Ⅱ
年度	2020年度
学年	5年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	13505
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.5単位
時間数	
科目責任者	＊＊＊＊
科目担当者	准教授・浦松 雅史・(医療の質・安全管理学)、講師・高橋 恵・(医療の質・安全管理学)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	

1．授業の目的・概要

授業の目的・概要	多様な医療事故の事例から、医師として安全で質の高い医療を提供することの責任・使命を理解する。

2．授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応
Ⅰ. 医療事故発生のメカニズムについて説明できる。	4-3・①・A
Ⅰ-1実際の医療には、多職種が多段階の医療業務内容に関与していることを具体的に説明できる。	4-3・①・A
Ⅱ. 医療事故の予防策について説明できる。	4-3・①・A
Ⅱ-1 個人の注意・能力向上の重要性とその限界について説明できる。	4-3・①・A
Ⅱ-2 医療現場における報告・連絡・相談と疑義に応じることの重要性を説明できる。	4-3・①・A
Ⅱ-3 組織的なリスク管理（制度・組織エラーの防止）が重要であることを説明できる。	4-3・④・A
Ⅱ-4 医療機関における医療安全管理体制の在り方（事故報告書、インシデントレポート、医療事故防止マニュアル、医療事故調査制度、産科医療補償制度）を概説できる。	4-3・④・A
Ⅱ-5 記録の重要性や、診療録（カルテ）改竄の違法性を説明できる。	4-3・④・A
Ⅱ-6 医療の安全性に関する情報（薬剤等の副作用、禁忌等）を共有することの重要性を説明できる。	4-3・②・A

3．授業の進め方と方法

内容	医師として医療事故を起こさない・繰り返さないためには、他山の石に学ぶことが重要である。本講義では、法律的な視点・臨床的な視点から過去の医療事故を紹介し、「患者及び医療者にとって、良質で安全な医療」を実現するために必要な医師のコンピテンシーについて学習する。

4．ICT活用

内容	e自主自学を使い授業中テストを行う.

5．授業時間外の学習

予習	
予習時間	30分程度
予習内容	教科書の該当項目で予習する。

復習	
復習時間	30分程度
復習内容	教科書の該当項目で復習する。

6．成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（%）	●授業評価 授業中テストで評価する（100%） ●実習評価
最終評価点	2/3以上の出席者に対して評価を行う．授業中テストで評価する．
合格点	60点を合格点とする。
筆記試験の形式	授業中にｅ自主自学を用いて行う．受講者は各自端末を準備して授業に臨むこと．
再試験・対象者	最終評価点が60点未満の者
再試験・実施時期	全ての講義終了後1回
再試験・範囲	授業範囲全て
再試験・難易度	特に規定しない。
再試験・方法	レポート提出
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7．履修上の注意

内容	他人の学習を妨げる行為は慎んでいただきたい．

8．オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど
三島史朗／医療の質・安全管理学分野 毎月にｅ自主自学と院内掲示で示す 医療安全管理室　内線62860 mana9@mac.com 『課外実習』として日程をポスタで掲示する

9．指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など
医療安全管理実務者　標準テキスト、日本臨床医学リスクマネジメント学会 編

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など

10．授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2020/8/29	土	1	実習	事例分析演習	○事故防止のために医師としてなすべきことを説明できる	説明と同意、記録、報告・連絡・相談	高橋 恵
2	2020/8/29	土	2	実習	再発防止演習	○医療事故発生時の対応方法を説明できる	医療事故、再発防止	高橋 恵
3	2020/9/5	土	1	講義	法的責任の概念	○医師の負う社会的責任を説明できる	医事法、コンプライアンス	浦松 雅史
4	2020/9/5	土	2	実習	危機予知演習	○医療事故の背景要因と分析方法を説明できる	ヒューマンファクターズ、根本原因分析	浦松 雅史
5								
6								
7								
8								
9								

10								
11								
12								
13								
14								
15								

科目名	行動科学・患者学 II
年度	2020年度
学年	5年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	13506
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.5単位
時間数	
科目責任者	＊＊＊＊
科目担当者	准教授・倉田 誠・(生命倫理学（医学倫理学）)、臨床教授・平山 陽示・(総合診療医学)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する

1．授業の目的・概要

授業の目的・概要	現代の医療者には、患者の思いや医師-患者関係のあり方を文化的・社会的文脈のなかで捉え省察する姿勢と能力が求められている。 本科目では、将来の臨床実践に行動科学・社会科学の知見を活かすことができるよう、具体的な症例の検討を通して健康・病い・医療に関する文化人類学的・社会学的な視点や方法論への理解を深め、「患者ともに歩む医療人となる」ための資質を養う。また、臨床倫理カンファレンス形式による症例検討を行うことで、臨床における問題やジレンマに気づき、ともに考える経験を通して医療者としてのプロフェッショナリズムを学ぶ。

2．授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応
1. 医療人類学や医療社会学等の行動科学・社会科学の基本的な視点・方法・理論を概説できる。	2・③・A
2. 健康・病い・医療をめぐる文化的な多様性を踏まえたうえで、実際の症例を検討することが出来る。	4-1・③・A
3. 臨床倫理カンファレンスについて、方法論を含めて概説できる。	4-2・⑩・A

3. 授業の進め方と方法

内容	実際の臨床事例やユネスコ生命倫理学講座ケースブック事例を利用し、各グループで臨床倫理カンファレンスを行い、発表する。

4. ICT活用

内容	特に予定していない。

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	授業予定表キーワードから自主的学習を望む。

復習	
復習時間	
復習内容	カンファレンスの振り返りが望ましい。

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（%）	●授業評価 出席30%、グループディスカッション時のピア評価　50% ●実習評価 レポート20%
最終評価点	出席点+ピア評価点+レポート点
合格点	60点を合格点とする。
筆記試験の形式	
再試験・対象者	最終評価点60点未満の者
再試験・実施時期	年度末に1回
再試験・範囲	全授業範囲
再試験・難易度	原則として本試験と同等のレポート課題
再試験・方法	レポート提出
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意

内容	グループディスカッションを行うので遅刻しないこと。

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど
平山　陽示 適宜 yoji-md@tokyo-med.ac.jp

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など
Albert R. Jonsen ら「臨床倫理学」第5版　監訳　赤林　朗ほか、新興医学出版社

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2020/6/20	土	1	SGD	事例の臨床倫理カンファレンス	○臨床倫理カンファレンスを通してプロフェッショナリズムを理解する。	臨床倫理 医療人類学 プロフェッショナリズム	倉田 誠 ,平山 陽示
2	2020/6/20	土	2	SGD	事例の臨床倫理カンファレンス	○臨床倫理カンファレンスを通してプロフェッショナリズムを理解する。	臨床倫理 医療人類学 プロフェッショナリズム	倉田 誠 ,平山 陽示
3	2020/7/4	土	1	SGD	事例の臨床倫理カンファレンス	○臨床倫理カンファレンスを通してプロフェッショナリズムを理解する。	臨床倫理 医療人類学 プロフェッショナリズム	倉田 誠 ,平山 陽示
4	2020/7/4	土	2	SGD	事例の臨床倫理カンファレンス	○臨床倫理カンファレンスを通してプロフェッショナリズムを理解する。	臨床倫理 医療人類学 プロフェッショナリズム	倉田 誠 ,平山 陽示
5								
6								

7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

科目名	緩和医療Ⅱ・診療録の記載（緩和医療Ⅱ）
年度	2020年度
学年	5年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	＊＊＊＊
科目担当者	特任教授・田上 正・(緩和医療部)、教授・濱田宏・（緩和医療部）、准教授・齊藤 理・(緩和医療部)、助教・村越 晶子・(精神医学)、兼任講師・遠藤 光史・(緩和医療部)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	

1．授業の目的・概要

授業の目的・概要	1．がん医療の中で緩和委用・緩和ケアの役割を理解する。 2．全人的な医療について理解する。 3．患者や家族の希望を支える医療やケアについて考える姿勢を身につける。

2．授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応
1．がんの病期における緩和医療・緩和ケアの役割を理解する。	4-2・⑩・A
2．Total Painについて理解し説明できる。	4-2・⑩・A
3．がん性痛の評価と治療方針を理解する。	4-2・⑨・A
4．アドバンス・ケア・プランニングについて説明できる。	4-2・⑩・A
2．Total Painについて理解し説明できる。	4-2・⑩・A

3．授業の進め方と方法

内容	5月16日：緩和医療・緩和ケアの役割を理解する。 がんの疾患軌跡においてどの病期にどのような支援が必要かを考える。 がん対策基本法の意義を理解しがん対策推進基本計画の変遷の意味を理解する。 我が国のがんの現状を知り切れ目のない緩和ケアを提供するには何が必要かを理解する。 5月30日：がんに伴い生じる精神的な苦痛について理解し、その対策を説明できる。 がんに伴って生じる身体的苦痛とその対策について説明できる。 WHO三段階除痛ラダーについて理解し説明できる。

4．ICT活用

内容	授業資料、パワーポイントを活用する レポート提出を忘れないこと、期限を守ること。

5．授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	WHOの緩和ケアの定義、がん対策基本法、がん対策推進基本計画、地域包括ケアシステム Total Pain、WHO三段階除痛ラダーについて、3，4年時の授業の資料やインターネット、その他の資料で調べておく。

復習	

復習時間	
復習内容	到達目標の理解を復習する。

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（%）	●授業評価 ●実習評価
最終評価点	出席点50点＋レポート点50点
合格点	60点を合格点とする。
筆記試験の形式	レポート提出に代える。
再試験・対象者	最終評価点が60点未満の者
再試験・実施時期	年度末に1回
再試験・範囲	授業内容すべて
再試験・難易度	授業をしっかり受けた者や資料をしっかり読み込んだ者にとっては平易
再試験・方法	レポート提出
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	必要な学生にはコメントでフィードバック

7. 履修上の注意

内容	1）遅刻や早退は出席点を下げる 2）提出物の期限を守る 3) 授業態度や発表は評価の対象にする

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど
田上　正、濱田宏 tanoue@tokyo-med.ac.jp 講義前後の時間を利用して質問をすること。またはメールでアポイントをとってから会うことができる。

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など
教科書：臨床緩和ケア[第3版]、大学病院の緩和ケアを考える会編集　青海出版

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など
日本緩和医療学会HP

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2020/5/16	土	1	講義	日本におけるがんの現況 がん医療における緩和医療の役割	○がんを説明できる がん医療における緩和医療の役割を説明できる 全人的医療の理解と説明ができる	緩和医療・緩和ケア 緩和ケアの定義(WHO) Total Pain	田上 正 ,遠藤光史 ,齊藤 理
2	2020/5/16	土	2	講義	がん対策基本法 がん対策推進基本計画 アドバンス・ケア・プランニング、アドバンスケア・ディレクティブ。DNAR	○アドバンス・ケア・プランニングについて説明できる 切れ目のない緩和ケアを提供について説明できる 患者や家族の希望に支える医療やケアについて考える姿勢を身につける	がん対策基本法 がん対策推進基本計画 アドバンス・ケア・プランニング、アドバンスケア・ディレクティブ、DNAR がんの疾患軌跡	田上 正 ,濱田宏

3	2020/5/30	土	1	講義	がんに伴う症状の評価と対応 コミュニケーション	○がんに伴う症状の評価と対策を理解する Bad Newsの伝え方について学ぶ	コミュニケーション Bad News Total Pain	村越 晶子 ,田上 正 ,遠藤 光史
4	2020/5/30	土	2	講義	Total Pain WHO三段階除痛ラダー	○Total Painがん患者の辛さについて説明できる WHO三段階除痛ラダーを理解し、治療時の副作用対策を説明できる	Total Pain がんに伴う痛み WHO三段階除痛ラダー オピオイド鎮痛薬 鎮痛補助薬	田上 正 ,濱田 宏
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

科目名	緩和医療Ⅱ・診療録の記載（診療録の記載）
年度	2020年度
学年	5年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	＊＊＊＊
科目担当者	臨床教授・平山 陽示・(総合診療医学)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する

1．授業の目的・概要

授業の目的・概要	模擬患者の医療面接を通じて得た患者情報から、POSに則ったカルテ記載を実施できる。

2．授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応
1．SOAPでカルテを記載できる。	4-2・⑧・A
2．プロブレム・リストを記載できる。	4-2・⑦・A
3．プロブレム・リストに応じた臨床推論を記載できる。	4-2・⑨・A

3．授業の進め方と方法

内容	模擬患者から患者情報を的確に収集し、プロブレム・リストを作成した後、プロブレム・リストに応じた鑑別疾患を列挙し、必要な検査を計画してカルテに記載する。

4．ICT活用

内容	電子カルテ利用について解説（活用）する。

5．授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	4学年のときのカルテ記載の授業を見直しておく。

復習	
復習時間	
復習内容	クリニカルクラークシップで実践する。

6．成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（%）	●授業評価 発表50%

	●実習評価 レポート50%
最終評価点	出席点+レポート点
合格点	60点を合格点とする。
筆記試験の形式	行わない。
再試験・対象者	最終評価点が60点未満の者、レポートを期日までに提出しなかった者。
再試験・実施時期	年度末に1回
再試験・範囲	全授業範囲
再試験・難易度	授業に臨んでいれば平易なもの
再試験・方法	レポート
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	提出されたレポートを評価し返却する。

7. 履修上の注意

内容	クリニカルクラークシップでの実践を常に頭に置くこと。

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど
平山陽示（総合診療医学） 金曜日　14：00-17：00／　教育研究棟7階 62053（IP）2150（内線） yoji-md@tokyo-med.ac.jp

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など
「型」が身につくカルテの書き方、佐藤健太　著、医学書院

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2020/6/6	土	1	講義	診療録の記載	○POSで実際にカルテを記載できる。	1　POS,POMR 2　SOAP	平山 陽示
2	2020/6/6	土	2	講義	診療録の記載	○POSで実際にカルテを記載できる。	1　POS,POMR 2　SOAP	平山 陽示
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								

14								
15								

科目名	臨床医学IV （概要・成績評価）
年度	2020年度
学年	5年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	14903
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	28.0単位
時間数	
科目責任者	＊＊＊＊
科目担当者	科目責任者:医学科長・河島 尚志
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する

1．授業の目的・概要

授業の目的・概要	臨床医学IVでは、学生が診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を学ぶことを目的とした診療参加型臨床実習を行う。 詳細は、「第５?6学年「臨床医学IV」実習ガイド」および「第５・6学年のための診療参加型臨床実習 Handbook」を参照のこと。

2．授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応
1. 医療面接におけるスキルを実践できる。	4-2・①・A
2. 患者の病歴聴取と記録の項目を挙げることができる。	4-2・②・A
3. 主要な疾患の診察において、基礎医学・臨床医学の知識に基づく基本的な判断ができる。	4-1・① ②・A
4. 患者・家族への指示、指導内容を説明できる。	4-1・③・A
5. 基本的な全身の観察（バイタルサインを含む身体診察）ができる。	4-2・④・A
6. 基本的な臨床検査の適応や結果の解釈を説明できる。 7. 基本的手技を指導の下に実施できる。	4-2・⑤・A 4-2・⑥・A
8. 基本的治療法とその適応を説明できる。 9. 指導の下、担当患者の医療記録を記載し、問題点を抽出できる。 10. 保険・医療・福祉の各側面に配慮しつつ診療計画を作成できる。	4-2・⑦・A 4-2・⑧・A 4-2・⑨・A
9. 指導の下、担当患者の医療記録を記載し、問題点を抽出できる。 10. 保険・医療・福祉の各側面に配慮しつつ診療計画を作成できる。	4-2・⑧・A 4-2・⑨・A
11. 患者の呈する症状や身体所見、簡単な検査初見に基づいて病態を評価し、鑑別診断や検査計画を提示できる。	4-2・⑩・A
12. 2次3次救急疾患の病態に応じた診療ができ、応急処置を述べることができる。 13. 診療の場で、ステューデントドクターとして相応しい態度・行動をとることができる。 14. 医療プロフェショナリズムを理解し、行動で示すことができる。	4-2・⑪・A 1・A ３・A

3．授業の進め方と方法

内容	第5学年1月から第6学年7月までの七ヶ月間、選択必修コースの診療参加型の臨床実習を行う。 詳細は、「第５?6学年「臨床医学IV」実習ガイド」および「第５・6学年のための診療参加型臨床実習 Handbook」を参照のこと。

4．ICT活用

内容	

5．授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	

復習	
復習時間	
復習内容	

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（%）	第５?6学年「臨床医学IV」実習ガイドを参照のこと。
最終評価点	
合格点	
筆記試験の形式	
再試験・対象者	
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意

内容	第５?6学年「臨床医学IV」実習ガイドを参照のこと。

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								

12								
13								
14								
15								